

ねっとわーく network

Vol.201
2020.02



All For One の内科当直

～患者を救い、若手医師を育てる～



府中病院
ホームページ



府中病院
facebook

生長会イメージキャラクター
にこまる



All For One の内科当直



～患者を救い、若手医師を育てる～

当院での内科当直の実際



当院は年間 5,000 件もの救急患者さんが来る救急病院です。

内科、外科、整形外科、産科がそれぞれ当直を行っています。私たち循環器内科では、府中病院の臨床研修プログラムの中で研修医の先生たちが当科ローテーションを通じてメキメキと成長してくれるのを見るのがとても楽しみです。特に 2 年目研修医の先生は、医者人生の中で最

も臨床能力が伸びる時期であり、その時期にどのような経験を積むかで、後期研修以降の臨床医としての能力に大きな差がつきます。初期研修期間中は、どんな研修医にとっても非常に忙しい時期であり、人によっては当直を負担に感じる研修医もいますが、実は当直こそ若手が育つ絶好の機会です。当院でも研修医の先生方に成長してもらえよう、指導医と上級医を含めた内科当直医 4 人の体制で、研修医にとって実りある当直を日々実践しております。また、当院の教育体制は指導医、上級医だけに限らず、経験豊富なコメディカルスタッフからの指導も充実しています。日々の臨床現場で看護師、臨床工学技士、検査技師をはじめとしたベテランスタッフたちが、OJT で研修医に対して多職種の様々な視点から気づきのアドバイスをくれます。

今日は循環器当直の一場面から、実際に多職種のチーム医療がどのような研修医の OJT につながり、府中病院の明日を担う人財が育っていくのか、医師だけでなくチーム全員で人を診る内科診療とはどのようなことなのか、尊敬し感謝できる先輩、同僚の存在がどのように人を育てていくのか、ご紹介したいと思います。

研修医を成長させた真冬の救急外来

ある冬の日、「**きょうは急激に寒くなります。**」と天気予報で言っており、なんだか嫌な予感を感じつつはじまった内科当直の夜。

日付が変わり救急外来がひと段落した午前 2 時に、初期研修医 2 年目の A 先生に救急担当の看護科長よりコールあり。

看護科長：「和泉救急から 救急搬送の依頼です。**40 歳**、女性、1 時間前に胸痛で、現在、血圧は 120/82、脈拍数 78、呼吸数は 20 回です。5 分 -10 分で到着です。」

研修医 A：「わかりました、救急室向かいます。」

当直室から、救急室に向かいながら研修医 A はこれまでの研修で経験していた症例（内科で担当した心筋梗塞、胃潰瘍、肺塞栓、大動脈解離、胸膜炎、気胸、など）を頭に思い浮かべ、救急搬送されてくる患者のことを考えた。「**何の病気かな？年齢は比較的若い、きょうはこの冬一番の寒さと言っていたよな。**」など、心筋梗塞、大動脈解離などの心血管病の可能性を想起しながら救急室へ向かった。**看護科長**：「救急入ります！ A 先生お願いします！」



救急搬送口に到着すると同時に当院のベテラン看護師が救急車のストレッチャーからベッドに移動の際に、「せーのーで、よいしょ」と移動。

その際、ベテラン看護師が「**この患者さん、すごい汗ですね。**」と一言。

研修医 A はバイタルが安定していることを確認すると、問診、聴診を行い、検査のオーダーをてきぱきと指示した。

A の印象としては「いまは胸痛なし、顔色等はそれほど悪くなく、今は症状が消失している。比較的若い患者さんで、特に気になる既往もなく、目立った異常所見はでていない。」ため、さきほど頭に浮かんだ心筋梗塞や大動脈解離の可能性は低いと考えた。

しかし、ベテラン看護師の一言「**すごい汗**」が耳に残っており、改めて問診をしてみると「胸痛時には**冷汗**も伴っていた」ことがわかり、以前早朝の勉強会で聞いた「データだけではない、**冷汗を伴うことは随伴症状として、重症度が上がる。**」という循環器内科部長の言葉を思い出し、すぐにその日に当直している、15 年目の上級医 B 医師に電話。

研修医 A：「B 先生ですか？深夜にすみません。いま来た救急患者さんがちょっと気になって。。。40 歳女性、主訴は胸痛、バイタルは安定して採血、心電図などに特に問題はないのですが、**冷汗**が気になって。。。」

上級医 B：「わかった、見に行くわ。」

B 先生は夜中にもかかわらず気持ちよく、救急室に来てくれ、A 先生と一緒にすぐに救急室の心臓超音波検査を行った。

まず血圧など安定していることを確認し、心臓超音波検査を A 先生が行った。

A 先生は研修医であるが、この 2 年間で、様々な科で超音波検査を行いたいづ慣れてきたつもりである。まず自分で心臓の超音波検査を行った。

研修医 A：「**心尖部（心臓の先端）の動きがやや低下しているような気がします。**」

B 先生は A 先生に変わって、エコー検査を行うと、A 先生に向かって、「血液検査、心電図では問題ないけれども、先生の指摘通り心臓超音波検査では動きが低下しています。**不安定狭心症**の可能性があり、緊急カテーテル検査を行きましょう。」

このことで、緊急心臓カテーテル検査を行うことを決定すると、てきぱきと放射線技師など、緊急心臓カテーテルチームが招集され、約30分でカテーテル手術の行える体制が整えられる。



緊急カテーテル検査の結果、心臓を栄養する血管（冠動脈）がほぼ詰まっていた。そのままカテーテル治療に進み無事治療が成功し入院となったが、幸い数日の入院で退院となった。カテーテル手術を終わって、B先生は翌日の申し送りの際に、A先生に今回の症例を通して、ほぼ診断から治療まで問題ないことを説明し、よく頑張ったことを

ほめた。A先生は、不安定狭心症を見逃さなかったことに安心すると同時に、異常所見に乏しい状況で**看護師の一言**からうまく診断に結び付けられ少し自信がついた。またA先生は当直を通じて、もし自分が教科書的な先入観にとらわれて判断しては危なかったこと、臨床経験の豊富な看護師をはじめとした多職種の声がチーム医療にいかにか大切であることを学んだ。



(左)入潮 壮俊先生 (中)田口 晴之副院長 (右)研修医 倉橋 寛樹先生

<指導医の言葉 田口晴之（循環器内科部長）>

当院の初期研修プログラムにおける「All For One」の精神は、患者（One）のために医療スタッフ全員（All）が力をあわせることは勿論、まだ経験の浅い若手医師（One）を多職種のベテランスタッフ全員（All）で見守り育てることも大事にしております。

府中病院の大きな強みである「垣根のない助け合い」は、院内それぞれの部門で多くの人財を育てています。これからも当院の誇るべきチーム医療が、現場を舞台に多くの優秀な若手医師を育てることで、泉州だけでなく国内外の医療に貢献していければと思います。

みなさま、これからも府中病院の「All for One」をどうぞよろしくお願いいたします。

今月の担当医師

副院長

循環器内科 部長 **田口 晴之** (たぐちはるゆき)

<外来担当曜日> 月曜日・金曜日

<資格>

日本循環器学会循環器専門医・近畿支部評議員
日本高血圧学会認定専門医・指導医
日本心血管インターベンション治療学会認定医・
専門医・施設代表医
日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本医師会認定産業医



ご登録医院の先生方へ
ご案内です！

送迎サービスのご案内



登録医の先生方に送迎サービスのご案内をさせていただきます。

紹介患者様が当院を受診される際、ご自宅(玄関先)から府中病院まで、車での送迎をさせていただきます。ご高齢の方で交通手段がない方・足の不自由な方などを対象に、ご希望がございましたら予約時に地域医療連携室までお申し付けください。



送迎範囲

和泉市・泉大津市・高石市・忠岡町・岸和田市
(上記以外の地域の方はご相談ください。)

対象検査

・MRI ・CT
・胃カメラ ・生理検査(超音波検査など)
(その他の検査はご相談ください。)

※診察、大腸カメラは終了時刻に個人差がある為、送迎は承っておりません。

患者さんからのお電話でも診察のご予約を承っております。



当院では、診療所の先生方よりご紹介いただいた患者さんで、すぐにご予定がつかない方につきましては、患者さんから地域医療連携室に直接ご連絡いただければ診察のご予約を取らせていただきます。

但し、血液疾患センター、糖尿病センターのご予約に関しましては患者さんからのご予約はお取り出来かねますのでご了承下さい。

(血液疾患センター、糖尿病センターのご予約は先生方より事前にご紹介状・検査データ等のFAXをいただき、医師確認の上、ご予約を取らせていただいております。)

府中病院 診察予約のご案内

府中病院では、診療所の先生方よりご紹介いただく患者様の診察予約を御本人様よりお電話にて承っております。
紹介状をご持参でご来院の場合は、下記の電話番号までご連絡ください。
※当日のご予約は出来かねますのでご了承の程、お願い申し上げます。

府中病院 地域医療連携室 フリーダイヤル

平日【月曜日～土曜日(祝日除く)】午前9時～午後5時迄

0120-40-2147

お電話では下記の内容をお知らせしますので、ご了承ください。

- 患者様の氏名
- 患者様の生年月日
- 患者様の住所
- 患者様のご自宅の電話番号
- ご紹介いただいた診療所名
- 予約診療で受診される診療科と医師名

※下記の診療科名でお呼びします。

■消化器内科	■循環器内科	■外科センター (乳癌検診外来)
■泌尿科	■皮膚科	■産科
■眼科	■耳鼻科	■小児科
■皮膚科	■皮膚科	■皮膚科

*診療所がご自宅、病院センター、地域医療連携室に直接ご予約ください。
ご了承ください。

府中病院

府中病院 地域医療連携室
予約専用フリーダイヤル



平日【月曜日～土曜日(祝日除く)】午前9時～午後5時迄

0120-40-2147

2020. 3 月

第3回泉州心不全 meeting

心不全再入院抑制のためのうっ血マネジメント

および地域連携による慢性期心不全管理

福岡赤十字病院 循環器内科 副部長 松川 龍一先生

泉州域でのハートノート活用報告

府中病院 心不全センター センター長 花谷 彰久

日時：2020年3月7日(土) 15:00～17:00

場所：ホテルレイクアルスター アルザ泉大津 4階 ロイヤルホール

2020. 6 月

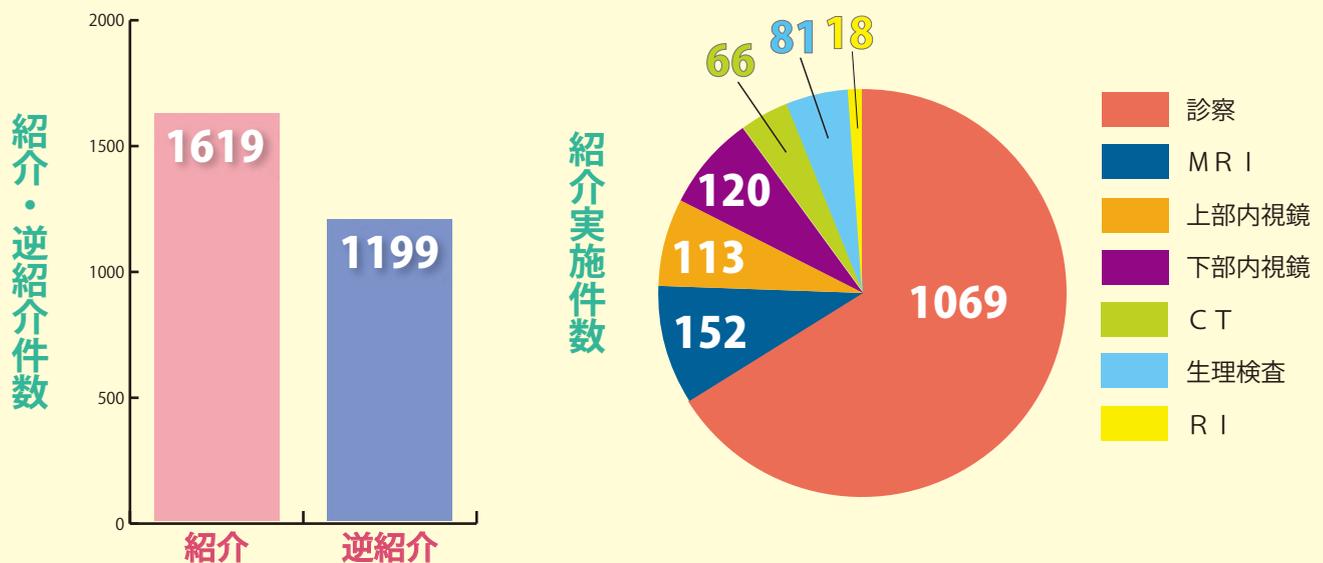
第3回サイエンス漢方処方セミナー

タイトルは決定次第ご案内いたします。

日時：2020年6月4(木) 17:30～19:00

場所：府中病院 西館地下1階 セミナーホール

紹介実績<2020年1月>



2020年2月・201号 ネットわーく

発行責任者：院長 竹内 一浩
 編集責任者：地域連携部 松田 有裕
 編集者：地域医療連携室 森 舞子
 〒594-0076 和泉市肥子町1丁目10番17号 府中病院 地域医療連携室
 TEL：0725-40-2147 予約専用フリーダイヤル：0120-40-2147
 FAX：0725-40-2148 E-mail：chiikirenkei@fh.seichokai.or.jp

私たちの理念

愛の医療と福祉の実現。
 地域と職員と共に栄えるチーム
 Yu・ki・to・do・ku ゆき届いたサービス

私たちの基本方針

チームとして、そしてパートナーとして
 チャレンジします。
 3つのベストにチャレンジします。